

良港を持つているため、昔から、漁業基地として有名です。

しかし、最近の沿岸漁業は、乱獲がたつて不振の傾向にあります。

このため、町では毎年、魚礁や築磯を設置するなど、漁場の改善や造成を進め、魚族の繁殖を促しています。昭和二十六年導入された真珠養殖は、一時漁業生産額の中で大きな比重を占めていましたが、昭和四十一年頃から不況を続け、最近、やや回復のきざしを示しています。

ハマキやノリの養殖も盛んで、屋形島の北側海岸一帯は、大規模な養殖漁場建設のための調査が続けられています。

波当津海岸、元猿海岸や、豊富なサンゴ礁、熱帯魚などのいる蒲江の海中公園は、観光開発適地として観光客を浴びつつあります。(この項終り)

解説

絵はがきに見る(その三)

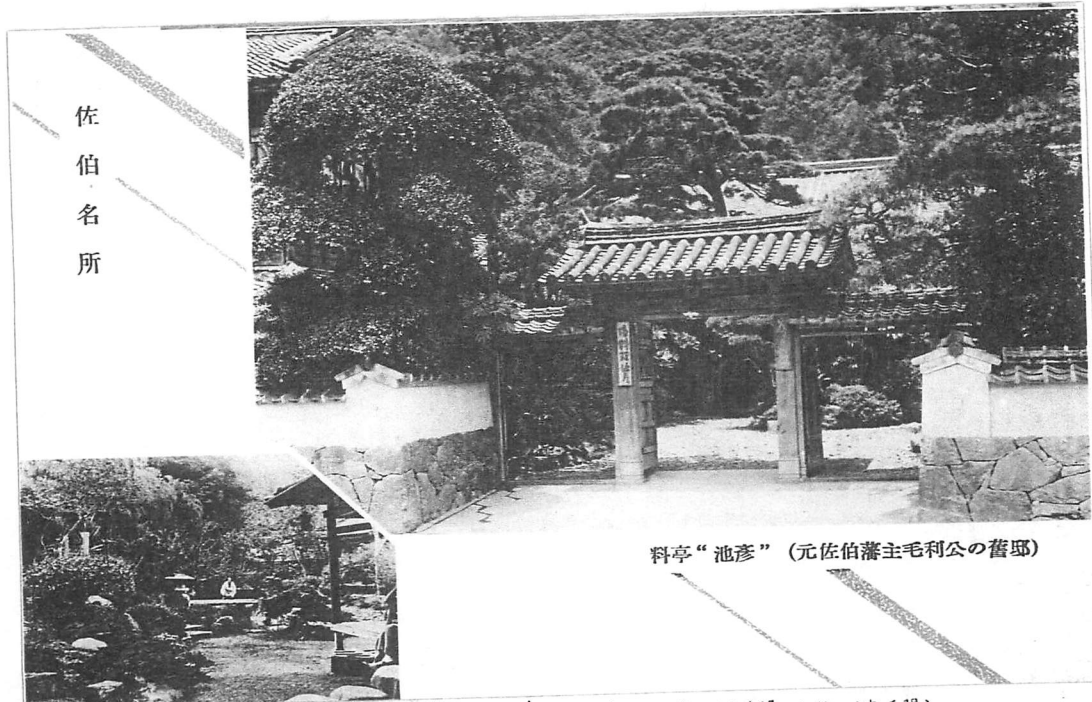
取壊される、三府御門。の姿 下の写真

昨年の夏であったか、西谷の武家長屋門が、市民に惜しまれながら、とうとう取壊された。暮には、もう藪のふくらみかけた西田邸の白木蓮が咲き消えた。そして並ぶの家屋が次々に壊され、近く料亭池彦の塀と正門が、市民の眼から消え去ろうとしている。よいことであらうか。

いづれも大寺前から西谷に通ずる、道路幅の狭い自然を失っている。惜しい。の人たちは、こうして歴史地を文化財や美しい自然を失っている。惜しい。

明治四年、佐伯藩屋敷敷地を見ると、三府御門と書かれてあり、門内は勘定所や奉行所や代官所など、佐伯藩の司政庁があった。明治年間、佐伯藩主毛利家が私邸としてこの門内に住んでおられた。いささか形は古がたておろうが、この門は同じとこみであった。

近くとり壊されて道路になる。こうして佐伯の歴史は書替えられる。



佐伯名所

料亭“池彦”(元佐伯藩主毛利公の舊邸)

取壊される佐伯藩三府御門 (後 毛利家私邸正門、今津池彦正門)